

濁水かわら版

第85号 2019年7月11日

ボケ防止を兼ねて 中安 宏規

日本の総理大臣 ②

長州(山口)閥で始まった明治の政治

第84号に続く、長州閥政治の続編です。今回から明治・大正・昭和前期の長州閥を含めた内閣を簡略に振り返ります。明治憲法制定の由来を含め、昭和維新に向けた日本の歩みに焦点を当てる予定です。

内閣の凡例 氏名赤字長州出身 青字薩摩出身
黒文字は他藩(兼)は兼務 氏名下*出身地。
陸・海は職業軍人(陸軍士官学校〔陸士〕
海軍兵学校〔海兵〕卒以前は人名事典を参照した。
官邸 HP の歴代内閣などをもとに独自に作成した。

【1】第1次伊藤博文内閣(1885/12/22~88/4/30日 在任 861日) 宮内大臣:伊藤(兼)→土方久元

首相	外務	内務	大蔵	陸軍	海軍	司法	文部	農商務	逓信
伊藤博文	井上馨 伊藤(兼) 大隈重信 *佐賀	山縣有朋 陸	松方正義	大山巖 陸	西郷従道 海 欧州漫遊 大山(兼) 西郷復職	山田顯義 陸	森有礼	谷干城 *土佐 陸 ひじかたひきもと 土方久元 *土佐 黒田清隆	榎本武揚 *江戸幕臣 海

外相井上×農商務相谷 ケンカで辞任

① 外相井上馨(1835-1915年)は、外務卿時代に外国の賓客接待と上流階級の社交の場として鹿鳴館の建設を計画。英コンドルの設計で1883年、日比谷に完成した。井上は82年から条約改正調査会を設け、各国公使と接触。外相に就任し鹿鳴館で舞踏会を開き、欧化政策と不平等条約の改正に取り組んだ。

② 欧化主義の先導者は伊藤で、ねらいは不平等条約の改正であった。アジア各国も苦しめられたが、日本は1854年の日米和親条約、58年の日米修好通商条約(露・蘭・英・仏を加えた安政5か国条約)を結び開港した。領事裁判権(外国人犯罪の裁判をその国の領事が行なう)を認め、関税自主権がない条約だった。

③ 伊藤と井上は各国代表と会合する度に2点を訴えた。領事裁判権の答えは「大切な生命・財産を日本の法権に任せるのは不安」である。関税問題で伊藤は「欧米では日本品に5割も7割の重税を課するも、日本では5分(%)以上の関税を課することも出来ないのは理不尽である。常に正義人道を口にする国々に考慮を切望する」と。(小松緑著「明治史実外交秘話」1927年4月刊)。米トランプ大統領が聞いたらびっくりするような関税である。著者小松は元外交官で伊藤らと親しかったと記す。前年から中外商業新聞(日経新聞)に約180回連載した記事に加筆し同社から出版した。鹿鳴館の仮装舞踏会は、外国人からの称賛は無く、裏切られ世間に醜聞が広がった。閣内からもまさかと思われた痛烈な批判が爆発したのだ。

④ 谷干城(1837-1911年)の

辞任。土佐藩の儒者谷万七の子。父から武芸・漢学を学び江戸遊学。「桜田門外の変」直後、現場を訪れ国事を思う。藩命で長崎・上海を視察。戊辰戦争に従軍。陸軍裁判所長→福岡・佐賀の乱を鎮圧→西南戦争では熊本鎮台司令官で籠城50余日、食も弾も尽き、奥保鞏中佐(後元帥)の突撃隊を出し、熊本城に迫っていた官軍と鉢み討ちし勝利を得、陸軍中將に昇進。陸軍を去り宮内省に出仕→学習院長→華族女学校長→学士院会員→伊藤内閣農商務大臣に就任。伊藤は、堅物の谷の頭を和らげるため欧州視察の旅に出したが、帰国するとさらに堅物になっていた。



谷干城

⑤ 帰国最初の閣議では、大臣官舎の新築が議題だった。谷は「欧米の文明は日本よりはるかに進んでいる。追いつくのに大変だ。民の膏血(油と血=重い税金)を絞って無用の官舎を作るとは何事か」。松方蔵相は「正当な租税」だと激論になった。伊藤が忠告したが谷が辞表を出し、次いで井上も辞表を出した。本来なら内閣瓦解だが、まだ議会在らなかったので、伊藤は平気で踏み留まり、井上に代わって外務大臣を兼任した。以上は小松の外交秘話の抜粋だ。6月、土方久元(1833-1918年)は、谷の後任2か月で初代宮内大臣に就任。宮内大臣は天皇を輔弼(サポート)する政府外の宮中の職で内府とも呼ばれた。

憲法発布 + 森暗殺 + 天皇陛下万歳

[2]黒田清隆内閣 (1888/4/30~89/10/25 在任 544 日) 宮内大臣:土方久元

首相	外務	内務	大蔵	陸軍	海軍	司法	文部	農商務	通信
黒田清隆	大隈重信	山縣有朋 松方(兼) 山縣復職	松方正義	大山 巖 陸	西郷従道 海	山田顯義	森 有礼 大山(兼) 榎本武揚	榎本(兼) 井上 馨 岩村道俊 *土佐	榎本武揚 海 後藤象二郎 *土佐

伊藤内閣からの居抜き政治

① 88/4/30 日、枢密院(明治憲法下の天皇の最高諮問機関)が、憲法草案審議のため設置された。初代議長に伊藤博文が就任。内閣は薩摩出身の黒田清隆に引き継がれ、伊藤は特に内閣に列せられた。顔ぶれは前伊藤内閣で辞任した井上馨が農商務相で復帰し、谷が消え、店主が変わった居抜き商店そっくりの内閣であった。

憲法発布に2つの事件

② 黒田清隆(1840-1900 年):薩摩藩の下級藩士の子。小柄ながら声が大で有名。薩長連合、薩長土連合に尽力し、戊辰戦争では箱館戦で榎本武揚(1836-1908 年)に利害を説き降伏させた。その後、榎本の助命に奔走。榎本も放免後に開拓使に出仕した。その功績で黒田が 70 年 5 月、開拓使次官となり北海道開発に尽力した。だが 10 年後、その官有物払下げが政治問題になった事は、伊藤の政治姿勢と合わせ後述する。

③ 89/2/11 日は明治憲法公布の日だ。同時に貴族院令・衆議院議員選挙法なども公布。この明治政府“晴れの日”に 2 つの事件が発生した。

① 文部大臣森有礼が、暗殺される。
② 憲法発布の式典後、東大学生らが代々木練兵場の観兵式に向かう天皇の公式函簿(天子の行列)を二重橋で見送り「万歳」を唱和した。

④ 語るは若槻礼次郎(1866-1949 年)。大正末から昭和初期にかけての15人目の首相である。島根県生まれの若槻は、叔父に 30 円借りて 1884(明治 17)年、司法省の法学校に私費入学した。やがて同校は東大に合併、本科生は大学法科へ、予科の若槻は大学予備門(後の一高)へ編入する。森が文部大臣になると、予備門の寮生は朝、整列点呼を受ける。教頭の訓示も「貧弱な学生は大学では歓迎しない」等々。若槻は自由を束縛されたくないと思いを述べて下宿に移った。

憲法発布の朝、森が暗殺され、生徒代表が森邸へ悔やみに出かけた。若槻もその 1 人で玄関



黒田清隆



榎本武揚



森 有礼

*顔写真は 1928 年刊「波乱立志 大臣」より

のざわざわしている所で弔辞を述べてきた。次に二重橋での祝福は、将来の日本の歡呼にしようという話が持ち上がった。経済学教授の和田垣謙三(1860-1919 年)が「万歳・万歳・万々歳」を提案。若槻らも唱和することになり、事前に宮内省へ伝えた。馬車が見えると、高らかに「万歳」の声が挙がった。ところが驚いた馬が棒立ちになり、脚をバタバタやりだした。第 2 声の「万歳」は小さな声になり、第 3 声の「万々歳」は闇から闇に消えて万歳が残った。(若槻礼次郎自伝「古風庵回顧録」より)

万歳は、先の太平洋戦争で玉砕などの際に「天皇陛下万歳」と叫ばれたことが多いと伝わる。

数え 19 歳 ロンドンに留学

⑤ 森有礼(1847-89 年)。薩摩藩士森喜右衛門の 5 男。秀才 5 人兄弟の長兄は数え 27 歳(以下数え年)、江戸の昌平校に学んだ次兄は 26 歳、3 兄は 12 歳で旅立ち、4 兄は 70(明治 3)年に世を憂え自刃した。時に 28 歳、有礼 24 歳であった。薩摩藩は、62 年の生麦事件をきっかけに勃発した 63 年の薩英戦争で敗れると、攘夷から開国に転じた。次に 14 人の青年を英ロンドン大学に留学させた。幕府には、全員変名で甑島などに派遣すると届けている。母 37 歳の時に生まれた有礼が、留学生に選ばれると、母は涙を流して喜び、父も了解した。有礼一行は 65 年 3 月、英国船で串木野近くから出港、スエズ経由で 5 月末、ロンドンに着いた。数え 19 歳であった。彼らは英下院議員オリファントを紹介される。彼は 61/5 月、水戸浪士が芝の東禅寺にあった英国仮公使館を襲撃した事件で負傷し、帰国していた。オリファントは快く、全員がロンドン大学の教授の指導を受けられるよう計らってくれた。留学生は幕府崩壊の報に 68(明治元)/6 月、米国経由で帰国した。蟹文字(英仏語など)使いは、[→次ページへ](#)

戯曲「森有礼」 小山内薫作 1926(大正15)年 歌舞伎座で上演 明六雑誌+契約結婚

前頁から) 引っ張りダコだった。22歳の有礼は、外国権判事→議事取調員→軍務官判事の職に就き「廃刀令」を建議した。反対する士族との論戦を戯曲「森有礼」で再現した。



第1幕第1場 1869年の「公議所の議場」(1929年刊「小山内薫全集第3巻」より)

⑥ 図Aは、劇作家小山内薫(1881-1928年)が1926(大正15)年末、歌舞伎座で上演した全5幕の戯曲「森有礼」の舞台写真だ。廃刀令を審議する「公議所の議場」で議長は有礼。公議所は政府が各藩の意向を聞き、意見をまとめる立法機関。69/3月に開院し、各藩から選ばれた公議人(277人・任期4年、2年ごと半数改選)が、議会方式で議案を審議した。小山内は舞台に約150人を集めたという。

⑦ 5/27日、公議所書記が提案の「切腹禁止可然(当然)」の議案は3対200で否決。次に有礼提案の「帯刀を廃するは随意」の審議に移った。提案要旨は、「天下動乱が治まり、世間は文明を求め、帯刀は粗暴殺伐の悪習であり虚飾である。よって官吏・兵隊を除く者は帯刀・脇差廃止を随意とする」。議場は騒然となった。

「日本刀は大和魂の権化だ」「それが虚飾か」「弊習か」「洋風の心酔」「毛唐のまねだ」「森は武士の魂を英国に忘れてきた」…。

批判とヤジが入り乱れる中、有礼は続けた。「日本を訪れる外国人は帯刀を見て恐怖を覚え、日本は好戦国と警戒するでしょう。(議場から→日本を恐れるのだから良い)。それは外交上問題です。外交とは平和折衝の意で、決して恐喝もしくは威嚇の意ではありません。条理公道を楯に一歩もひかない事は当然ですが、武力を誇示して条理を圧迫するは卑屈卑怯な外交と言わざるを得ない。…大和魂は、無形の魂で有形の刀剣ではない」

採決は6/2日に延期され否決。賛否票数の結果は、不明である。東大卒の小山内は参考文献を10冊挙げ、日付は正確である。討議の内容も戯曲に近いものだったと思われる。

有礼は、廃刀令の建議を大久保利光に相談し、「時期尚早」と言われたが、受け入れず建議した。否決を受け辞任し帰郷する。廃刀令は7年後の76/3/28日に布告された。

図B 森有礼 結婚契約証

結婚契約証
 現年十九年八月ノ月ノ日ニ連シタル静岡縣士族廣瀬阿常、同廿七年八月月鹿兒島縣士族森有礼、各其親ノ承諾ヲ得テ互ニ夫婦ノ約ヲ爲シ、今日即チ紀元二千五百三十五年二月六日、即チ東京府知事職ニ在ル大久保一翁ノ面前ニ於テ、婚式ヲ行ヒ約ヲ爲シ、双方ノ親戚朋友、共ニ之ヲ公認シテ、茲ニ婚姻ノ約條ヲ定ムルノ左ノ如シ
 第一條 自今以後、森有礼ハ廣瀬阿常ヲ其妻トシ、廣瀬阿常ハ森有礼ヲ其夫ト爲ス事、
 第二條 爲約ノ双方存命ニシテ、此約條ヲ廢棄セザル限ハ、共ニ體面ヲ相敬シ、相愛シテ、夫婦ノ道ヲ守ル事、
 第三條 有瀬阿常夫婦ノ共有シ、又共有スベキ品ニ就テハ、双方同意ノ上ナラバハ他人ト賣信或ハ賣買ノ約ヲ爲サズル事、
 右ニ掲タル所ノ約條ヲ爲シ、一方犯スニ於テハ、他ノ一方、是ヲ官ニ訴ヘ相當ノ公處ヲ願フ事ヲ得セン、
 紀元二千五百三十五年二月六日
 證人 東京ニ於テ 森 有礼
 廣瀬阿常
 福澤諭吉
 海門山人著「森有礼」より

⑧ 廃刀令で敗れ帰郷した有礼は、政府に呼び戻され外交官として渡米する。外務省編「日本外交年表」は70/11/25日、有礼を少弁務使で米駐在、大蔵少輔伊藤博文を米国派遣、を併記している。2人が米国で会ったと思われる。有礼は72/11月、代理公使になり73/8月、日米郵便交換条約を調印し帰国。明六社を設立した。翌年「明六雑誌」を刊行。明六は明治6年創立を意味する。社員は福澤諭吉、西周、加藤弘之ら約15名が啓蒙記事を執筆した。有礼は、結婚契約証と密接な関係がある「妻妾論」(全5回)などを外交官のまま執筆してしている。

⑨ 図Bは森有礼が75/2/06日、結婚した時の結婚契約証である。妻広瀬常は幕臣の娘で開拓使女学校を退学した活発な女性と伝わる。東京府知事大久保一翁の前で契約を誓い福澤諭吉が証人である。原文は毛筆であろう。

97(明治30)年刊の海門山人著「森有礼」は伝える。彼は「男女同権は言っていない。男女同等とは言った」と。女子は体力劣るも女子も人たる以上は、男子は女子を玩物視せず…相当の礼、適宜を以て女子に対せざる可らず、と記している。常との間に2人の子を設けたが、86年に離婚し翌87年、岩倉具視の5女寛子と再婚した。

森の暗殺理由や明六雑誌は広く知られているが、現在の外交問題を含め、次号以降でも触れる予定です。